

令和4年度福島県立美術館運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和5年2月16日(木) 13:30～15:20
- 2 開催場所 県立美術館2階会議室
- 3 委員数 10名
- 4 出席委員数 9名
- 5 議 題

(1) 令和4年度事業の概要について

- ア 令和4年度事業の状況について
- イ 観覧者数等の状況について
- ウ 施設・設備の状況について
- エ 福島県立美術館運営計画指標の達成状況について

(2) 令和5年度事業計画(案)の概要について

(3) その他(福島県立美術館の運営等について)

6 議 事

○福島県立美術館長挨拶

日頃から当館の運営に多大なる御支援、御協力をいただき心より御礼申し上げます。また、今回の委員改選で新たに委員に御就任いただいた皆さまには、快く委員をお引き受けいただき感謝申し上げます。令和4年度の入館者数は残念ながら伸び悩んでいるが、昨年秋に開催した亜欧堂田善展が全国放送の美術番組で取り上げられるなど、企画展の開催を通じて本県の美術や文化の発信に貢献することができたと考えている。また、今年度も美術作品の購入はできていないが、新たに県内の版画コレクターの方から多数のコレクションを御寄贈いただいたので、来年度にはそれらを活かした展覧会なども企画していきたい。当館は令和6年度に創立40周年を迎えるが、魅力ある展覧会の開催を始め、多くの県民の皆さまに喜んでいただける活動を続けていきたいと考えているので、引き続き御支援、御協力をお願いしたい。本日の運営協議会では、令和4年度の事業概要や令和5年度の事業計画について、忌憚のない御意見を頂戴したい。

○出席委員及び事務局等出席職員を紹介

○会長、副会長の選任

令和5年1月1日付けで委員が改選されたので、福島県立美術館運営協議会条例

第4条の規定に基づき、委員の互選により全員一致で会長に鈴木淳一委員を、副会長に齋藤美保子委員を選出した。

会長に選出された鈴木委員が挨拶の後、議長として議事を進行した。

(1) 令和4年度事業の概要について

令和4年度事業の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【齋藤勝正委員】 亜欧堂田善展を観た方の感想を聞いてみたところ、照明が暗くて展示が見づらかったとの意見があった。作品の劣化を防ぐためにやむを得ないものと思うが、何か対策はできないのかお聞きしたい。

【副館長心得】 亜欧堂田善展の展示作品は、重要文化財も含めて紙に刷られた版画で、絵画の中では一番照度が制限される材質であるため、どうしても暗くなってしまう。ただ、その中でも、展示の見せ方を工夫することでもう少し見やすく対応できる部分もあると思うので、御意見を真摯に受け止め、今後研究してまいりたい。

【岡部委員】 美術館活動について、数値だけで評価されるというのは非常にもったいないと感じている。文化事業は数に表しにくいところがあり、県立美術館の果たす役割はもっと広く、豊かなものであると思う。自分は福島県文化振興審議会の委員を務めているが、そこでもやはり数値で評価がされており、県立美術館は入館者数だけで評価されていた。本来その評価はごくごく一部のものであるので、県立美術館の意義が伝わるような評価を何かできないのか、評価の見える化ができないのかについてはどのように考えているか。

【館長】 昨年度、県の総合計画と期間を合わせて館の運営計画を策定したが、どうしても目に見える成果としては数値が求められるところ。委員御指摘のように、館の活動は単純に数字で測るだけのものではないと認識しており、様々な活動に対して評価いただいているところもあるので、この会議の場も含め、御理解いただけるよう説明してまいりたい。

【鈴木会長】 満足度調査やアンケートなどはやっていないのか。

【館長】 入館者アンケートはやっており、御意見には好意的なものも厳しいものもある。そういった御意見も踏まえながら取り組んでまいりたい。

【笠原委員】 いい展覧会に人が来るとは限らないというのが、30年以上学芸員をやってきた実感である。県の美術館として、10万人という目標を立てなければいけないというのは重々理解しているが、美術館としてはそれはほんの一部

の評価でしかないので、そこをきちんとアピールしていただきたい。

会議の前にアニュアル展を拝見したが、福島ゆかりの作家を2人紹介している。写真家の村越さんは全国的にも非常に評価の高い人物であるが、こういった展覧会は福島だろうが東京だろうが、入館者は少ない。美術館は現在だけを見てはいけな文化施設であり、こういった作家を認知して作品を収集し、未来に贈ることで美術館の役割は果たされるものだと思う。現在活躍されている作家の作品を入手するために、ある程度の予算を作家に与えて、制作した作品を寄贈してもらうような取組は考えているか。

また、入館者数を増やす取組としてはYouTubeが非常に有効である。分析結果からみると、YouTubeはあまり予算もかからず、手製でつくった動画でも、いつもの来館者層ではない層が見ており、爆発的に来館者が増えることもあるので、有効な取組の一つとして御紹介しておく。

【副館長心得】 作品の収集予算については、美術品取得基金に補填する予算がつかない状況が長く続いている。基金に現金がない状況のため作品購入が途絶えているが、昨今全国の公立美術館でも作品購入の動きが再開しているため、財政当局にも作品購入予算について引き続き働きかけてまいりたい。

また、アニュアル展に関しては、作家に賃借料をお支払いする形で作品をお借りしているので購入・収集には結びついていないが、昨年度の展覧会を機に、出品作家2名から一部作品の寄託を受けることとなった。これらの作品については、現在常設展で展示している。

【笠原委員】 購入しない期間が長すぎると思う。収集と展示は両輪であるので、ぜひ収集予算はしっかりと措置していただきたい。

【大槻委員】 美術の授業でアートカードを活用している。先日は1～3学年すべてに対して「美術館について知ろう」「自分で企画展をつくってみよう」という授業を行った。まずは県内の美術館でどんな企画展をやっているのかを調べさせたが、美術館に足を運んだことがない、企画展と常設展との違いが分からないという子どもが多かった。今行かない子どもたちは、10年後、20年後であっても行かないわけで、美術館に足を運ぶ人が少なくなるだろうと感じた。授業で県立美術館を取り上げたときに、YouTubeで配信しているアニュアル展の動画を見せたところ、子どもたちは非常に興味を示していた。子どもたちは美術に興味がないわけではなく、距離の問題やきっかけがないだけなので、映像や学芸員の紹介動画など、HP上で美術館に触れあう機会があるとよいと考えるが、今後のオンライン活用の予定などを伺いたい。

【館長】YouTubeの動画配信については、コロナの影響もあって2020年度に始めており、年間数本配信している。福島県内は広く、なかなか遠方から来れない方もいるので、ネット上でご覧いただける機会として引き続き続けてまいりたい。また、子どもたちへの働きかけについては、遠足など学校行事での来館を促すとともに、家族みんなで観覧いただける企画展なども検討してまいりたい。

(2) 令和5年度事業計画(案)の概要について

令和5年度事業計画(案)の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【齋藤勝正委員】今後の事業計画について、若手作家だけでなく各年代層の作家を俯瞰した展覧会の開催について昨年度も申し上げたが、その企画はどうなっているのか。

【館長】令和6年度が創立40周年に当たるため、そこに向けて研究を進めてまいりたい。

【齋藤美保子委員】ここ数年いい企画展を開催していると思う。子どもたちの美術離れは大学生でも同じであり、まず美術館に足を運んだことがない。せっかく優れた環境があるので、ゼミの学生を連れて美術館や図書館、古閑裕而記念館など、周遊するような形で一日回るようにしているが、卒業までの間に美術館を楽しめる機会を与えていきたい。その中で、昼食など休憩をとるわけだが、レストランについて伺いたい。今年度改修工事をしたとのことだが、新たな出店計画はどうなっているのか。

【館長】前段の話について、常設展は高校生まで無料であるが、なかなか足を運ぶ機会のない方も多い。美術に触れあうことは心を豊かにしてくれる。ぜひとも豊かな人生の入口になる美術館でありたいと考えている。

次に、レストランについて、昨年5月の事業者撤退後、出店業者の公募を行ったが、コロナの影響で飲食業界も大変厳しい状況で、なかなか手を挙げる業者がいなかった。ようやく、年末になって手を挙げてくれた業者がおり、出店の内定は出している。出店はおそらく年度明けになると思うが、近く公表できればと考えている。

【舟木委員】私は美術館友の会の役員をしている。コンサートやバザーなどは実施できたが、コロナ禍でここ数年研修旅行等の活動ができていない。今、友の会は3つの問題点を抱えている。活動の機会が減るということは会員の更新

機会も減っているということで、会員数が50人程度まで減少している。2つ目が若い会員がいないこと、3つ目が福島市内在住の会員ばかりで市外の方がいないことである。友の会の構成も、美術館の利用者と同様の状態である。より広い地域から、広い年齢層の方に関わっていただき、友の会の活動を活性化できればと考えている。

【館長】友の会の皆様には様々な活動で助けていただいております、感謝申し上げます。引き続き、連携して取り組んでまいりたい。

【番匠委員】県立美術館にはよく来ているが、長く美術に関わっている中で感じることがある。福島県の美術に対する県民性についてである。運営計画をみると県民に寄り添った理念や活動が記載してあり、美術館では長年そのように取り組んできたのだろうが、自分としては、美術や表現活動に対して壁を感じている、自分とは関係ないと考えている人が少なくないと感じている。伊藤若冲など全国的に有名な方の展覧会には人が来ても、それが初めての機会であったり、それっきりであったりする。関東圏の美術館には連日人がたくさん訪れているのに、なぜ福島ではこんなのか、ジレンマのように感じながら生徒にも話をしている。県立美術館では、こういった県民性に対してどのように考えながら事業計画を立てているのか伺いたい。

【館長】企画展をきっかけとして訪れる方が多いと考えているので、これまで県立美術館に来たことがない方にも「来てみたい」と思われるような企画展と、学芸員の研究成果を生かした企画展を、バランスをとりながら実施してまいりたい。また、今年度、特集展示で行った猫絵馬のプログラムは非常に好評で、多くの家族連れの方に楽しんでいただいた。こういった美術に触れあう機会があれば、より多くの方の目が向くと思うので、引き続き取り組んでまいりたい。

【笠原委員】東京の美術館の者として申し上げますと、単に人口密度が高いだけで、東京でも地方でも状況は同じである。人が集まる、打ち上げ花火のような展覧会をやっても、その展覧会に来るだけであって、美術館に来るわけではない。だからその後、人は来ない。マジックのような解決策はないので、コレクション展でギャラリートークをしたり、学校教育をやったり、地道な取り組みを積み上げていくしかないと考えている。NHKの「日曜美術館」で2回も取り上げられることなど普通はない。すごくいい展覧会をやっているということなので、それを続けていくしかないと思う。

【佐藤委員】県立美術館でこれほど様々な事業や取り組みを行っていることは知ら

なかった。自分も含め、美術館の活動が一般的に知られていないと思うので、SNSによる情報発信が重要ではないかと思う。家庭教育インストラクターとして屋外での活動には携わってきたが、美術や芸術と触れあう活動はしていなかったので、美術と触れあう機会の必要性についても考えさせられた。

(3) その他（福島県立美術館の運営等について）

【岡部委員】美術館を運営する立場からすると、どうやって来てもらうかをまず考えなければならない。また来てもらうためには満足感がなければならず、そのためには、滞在できるエリアであったり、話し合える窓口であったり、来て観るだけでなく活かせる場とすることが重要だと思う。また、自分の専門からすると、障害のある方や、どんな方にでも使ってもらえる場にするという視点が大事である。今年度は、福島県博物館連絡協議会が主催するアクセシビリティ向上に向けた研修会を県立美術館の学芸員と一緒に担当した。運営する上でのベースとして「合理的配慮」が義務として言われているが、それについてはどのように考えているか。

【館長】ハード面でいえば、当館は40年近く前に建てられた建物なので、スロープはあるものの、どうしても階段などを解消することは難しい。ソフト面でいえば、視覚障がい者向けワークショップの実施や障害のある方への観覧料無料措置のほか、ご要望があれば障害のある方やお子様連れの方など、誰に対してもスタッフがフォローをしているので、そういった対応を大切にしていきたい。

【岡部委員】やらなきゃいけない、という風にとらえてほしくはなく、どんな立場の方でも使いやすいということが大事である。いろんな立場の方の意見が入ることが、文化的な豊かさが広がるベースになる大事な部分だと思う。ぜひ、県全体の旗振り役として取り組んでいただきたい。

【鈴木会長】美術については素人であるが、朝倉撰展や亜欧堂田善展を観た感想を申し上げる。田善展の照明の暗さは齋藤委員の御指摘のとおりだが、きちんと理由を記した説明書きがあったので納得できた。朝倉撰という人物については知らなかったが、社会と美術作品との連動、しかもこの時代に女性がこのような活動をしていたのかと、観覧後に放送された「日曜美術館」で更に理解を深めることができた。鑑賞して学びがあることが、喜びや、次も行きたいという気持ちにつながる。本日の説明を聞いて、美術館があの手この手で学びに繋げようと努力していることが理解できたので、うまくかみ合っていけばよいと思う。レストランの出店も決まったようだし、今後もこれまで

以上に頑張っていただけよう、私たちも後押ししていきたい。

【議 長】すべての議題について承認してよいか、お諮りする。

【委員一同】異議なし。

【議 長】すべての議題を承認する。本日委員の皆様からいただいた貴重な意見が、館の運営に適切に反映されることを期待して、議事を終了する。

【館 長】長時間にわたる御審議、感謝申し上げます。委員の皆様からいただいた意見を、今後の運営に運営に活かしてまいりたい。

以上をもって、令和4年度福島県立美術館運営協議会を閉会した。